

【日本の神様を集めた七福神】

純粋な日本の伝統を重んじた江戸時代の国学者（日本の古典を研究する学者）の中には、さまざまな国の神様が混じり合った七福神に反発する者もいた。

増穂残口（ますほざんこう）という国学者が、元文二年（1737）に『七福神伝記』という著述を発表している。

その中で増穂は、

大己貴尊（おおなむちのみこと）（大国主命）、
事代主命（ことしろぬしのみこと）（恵比寿様）、
巖島大明神（イチキシマヒメ）（市杵嶋姫命）、
天穂日命、（アメノホヒノミコト）
高良大明神（武内宿爾（たけしうちのすくね））、
鹿島大明神（武甕槌命（たけみかづちのみこと））、
猿田彦大神を七福神としている。

いずれも『古事記』や『日本書紀』に出てくる日本の神である。

【市杵嶋姫命】は、素戔嗚尊（すさのおのみこと）の子神で、天穂日命は出雲大社の神職務める出雲氏の祖先神である。

【武内宿爾】は、古代の有力豪族、蘇我氏や葛城氏の祖先神で、武甕槌命は高天原（空の上の神々が住む世界）から地上に降って大国主命を従えた神で武芸の神とされる。

【猿田彦】は、皇室の祖先を地上に案内した神で、道祖神として祭られている。

増穂は福を授ける日本の神を祭るように人びとに説いたが、国産の七福神は庶民には広まらなかった。

.....

【七福神】福の神として信仰される、
恵比須(えびす)・大黒・毘沙門(びしゃもん)・弁天・福祿寿(ふくろくじゅ)・寿老人・布袋(ほてい)
の総称。

【布袋】

日本では七福神の一人として知られる布袋は、中国では、弥勒の化身とされ、下生した弥勒如来として仏堂の正面にその破顔と太鼓腹で膝を崩した風姿のまま祀られている。